

『妄想ハーレム』

メイドのミーザ・ルマンダについて聞いて回っていたロスティン・マイカンは、彼女が外れの館で魔力制御訓練を受けていることを知った。

外れの館2階の清掃担当にも自ら立候補し、任されているらしい。

それから、人質として長く捕らえられていた少女、シャンティア・グティスマーレの世話も担当しているとのことだった。

ロスティンは情報収集を終えると、花束を用意し外れの館の側で彼女を待ち伏せることにした。

「ミーザちゃんは、あそこか……。よし、御者だ。彼女を館まで運んだあと、馬車から降りてきた彼女を花束で迎える。これだな！」

その時、ミーザは館の前で、囚人と面会をしているシャンティアを待っていた。

「そういうわけで、場所を開けてもらうぞ」

「は、はあ……」

不思議そうにしている御者に端に寄ってもらい、隣に座ると、服や髪を整えながらミーザを待つ。

少しして、彼女はシャンティアと共に馬車に戻ってきた。シャンティアを馬車へと乗せて、自分も乗り込んだ。

「人質の女の子のお世話か……。ミーザちゃん、優しいな。いやまてよ、彼女が解放されたのだから、この俺の存在があつてこそ。ちと幼いが可愛いし、将来のために優しく声をかけておくべきか？ むしろ人質同盟でも結んで、末永くお付き合い……」

などとロスティンが顎に手を当てて考えている間に、馬車は出発していた。

「それにしても、元人質同士、どんな話をしてるんだろ？ 救世主である俺様の話題なんてことも！」

ロスティンは客席の方に耳を傾けて、意識を集中する……。

『そういうことですか！ あの時の怖い女の人が、アニサさん……。訓練の時……。全然……。ですよー。……。影のある……』

『そう……』

『……アーリーさん……か？』

『もう少ししたら、死ぬ……世界……滅びる……』

『……は……ます……火の……滅んだら……生き……なりません……』

シャンティアの声はあまり聞き取る事が出来なかった。

(アーリーって、あの破滅を説いてたナイスバディな女性だよな！)

冷たい印象の女性だったが、顔は整っていたし、なにより身体が良かった。

(……そうか、いっそのこと彼女も加えて、可愛い、美人、ナイスバディな同盟を築いて、1日交代で愛で……！)

そんな感じで、ロスティンが妄想に耽っている間に、馬車は到着し、ミーザはシャンティアを連れて館へと戻っていったのだった。

こちらのリアクションは以下のPCに発行されています。
ロスティン・マイカン